



JCS NEWS

日本チェロ協会会報 第41号 (2014年3月31日)

第4回チェロの日を開催

大雪の中、チェロの暖かな音色が会場を包む

日本チェロ協会は2014年2月8日～9日、第4回チェロの日をサントリーホールにて開催しました。関東地方が未曾有の大雪に見舞われた2日間でしたが、大勢のお客様にご来場頂き、両日とも熱のこもった演奏が繰り上げられました。

今回のチェロの日では、初日に「チェロ・ソロ・コンサート」を、2日目には「チェロ・アンサンブル・コンサート」を開催。チェロ協会会員で構成された「チェリストの集い」参加者の皆さんは、アンサンブル・コンサートでチェロ・オーケストラとして出演、リハーサルや学びのセッションにも参加しました。

チェロ・ソロ・コンサート

8日午後2時に開演したチェロ・ソロ・コンサートは、4組の演奏者がそれぞれに魅力ある演奏を繰り広げ、チェロ愛好家を喜ばせました。



最初に登場したのは、伊東裕さん(Vc)と鳥羽亜矢子さん(Pf)。ベートーヴェンが5曲作曲したチェロ・ソナタの第3番を演奏。伊東さんは、現在東京芸術大学に在籍中の若手チェリストで、チェロ協会主催のマスタークラスも受講されています。今後のさらなる活躍が楽しみな瑞々しい演奏でした。

続いてR.シュトラウスのチェロとピアノのためのソナタを演奏したのは、河野文昭さん(Vc)と河野美砂子さん(Pf)。(2頁へ続く)

ルイス・クラレット チェロ公開マスタークラス 4月にサントリーホール・ブルーローズで開催



ルイス・クラレット先生

2014年4月10日、ルイス・クラレット先生をお招きしてチェロ公開マスタークラスをサントリーホール・ブルーローズで開催します。クラレット先生は講師としてお出で頂くのは今回で実に5回目。受講生・曲目も決定いたしましたので(詳細は10頁をご覧ください)お問い合わせの上、奮ってご参加下さい。非会員の方も聴講頂けます。

2014年5月に総会開催

2014年5月、第9回総会開催に向け只今準備を進めております。皆さまどうぞご参加下さい。ご案内は別途お送りいたします。

毛利伯郎 チェロ協会評議委員 ご退任のお知らせ

チェロ協会設立以来、約17年間評議委員を務められた毛利伯郎先生が2014年3月末日を持ってご退任されました。これまでチェロ協会の活動に多大なるご支援・指導をして頂きましたこと、心より感謝申し上げます。(毛利先生の退任のご挨拶は10頁をご覧ください)

JCS NEWS 第41号 コンテンツ

- 1 2014年度協会主催の催し/第4回チェロの日開催報告
- 2 第4回チェロの日開催報告
- 3 第4回チェロの日開催報告
- 4 Cellists' update
- 5 Cellists' update

- 6 2013年度マスタークラス開催報告
- 7 2013年度マスタークラス開催報告
- 8 2013年度チェロサロン開催報告
- 9 コンサート情報
- 10 事務局からのお知らせ

(1 頁から続く)

一緒に演奏されることも多いコンビによるシュトラウスはまさに息の合った演奏で、聴衆からも多くの拍手が送られていました。

休憩を挟んで、門脇大樹さん(Vc)と鈴木慎崇さん(Pf)がショパンのチェロ・ソナタを演奏。門脇さんは昨年4月に神奈川フィルハーモニー管弦楽団の首席奏者に就任した若き俊英。同年代で活躍する鈴木さんと共に、ショパンが彼らと同じ年頃に作曲したこのソナタを、情緒豊か

に演奏しました。

ソロ・コンサートのフィナーレを飾ったのは倉田澄子さん(Vc)と尾高惇忠さん(Pf)のお二人。フォーレのチェロ・ソナタに続き、同じくフォーレのエレジー、そしてラヴェルのスペイン狂詩曲より「ハバネラ」と、フランスに留学されていた倉田さんらしいプログラム。情熱と円熟を併せ持った演奏に、大雪の中集まった聴衆も魅了され、心が温まっていくようでした。

チェリストの集い

多くの会員が参加

今年も、事前募集に応募した約60名の会員が「チェリストの集い」に参加しました。“集い”最大のイベントは、アンサンブル・コンサートにチェロ・オーケストラとして出演すること。そのために、今回も有志による自主練習が企画されました。昨年9月から通算10回以上開催されたこの練習会には多くの方が参加してチェロの日に備えました。

初日は雪の影響も

大雪に見舞われた初日、遠方から参加予定だった方の中には、断念されたり到着が遅れたりした方も残念ながらいらっしゃいましたが、大半の方が無事“集い”に参加されました。

午前は3カ所に分かれてパート練習を行い、ラーニング・セッションやソロ・コンサート鑑賞を経て、夕方から全体合奏。雪の影響で全体的にスケジュールが繰り上げとなりましたが、メンバー揃って初の合奏で参加者の気迫ももっていました。“縦の線”を合わせることで困難な部分も、山本先生の丁寧なご指導もあり、次第にアンサンブルがまとまっていきました。

練習後には懇親会を開催する予定でしたが、交通機関の乱れなどを考慮し、残念ながら懇親会は中止、次の日に備えて頂くことになりました。なお、サントリーホール様のご厚意によって、希望者のチェロを特別にホールの楽屋に留め置かせて頂けたことを付記致します。

山本先生のラーニング・セッション

ゲストをお呼びしてチェロにまつわることを学ぼうというラーニング・セッション、今回のゲストは我らのマエストロ山本祐介先生、参加者からの質問に山本先生が丁寧に答えて頂くという正真正銘の学びの場になりました。参加者から「どんな練習したらチェロを上手に弾けるようになりますか。」と究極の質問が飛ぶと、すかさず「弦と弓とを常に直角に保つ練習をすること。弓の元

や先に来た時に癖のある動きをしている人が大勢いる。」と基本練習のコツを丁寧にアドバイスいただきました。他にも、「大切なことは他の楽器やスポーツでの体の使い方を見ながら常にチェロ演奏のヒントを探る姿勢を持つこと。」など基本に忠実に自分で考えながら試行錯誤することの大切さを教わりました。



2日目のリハーサルとサプライズ

幸い都内の雪は朝までに止んで、2日目のリハーサルは予定通り10時から開始。前日参加が出来なかったメンバーやプロの参加者も集結しました。ところがチェロ・オケのコンサート・ミストレスをお引き受け頂いていた長谷川陽子さんが、雪の影響で東京に帰ることが出来ずにいたのです。鉄道が運転を見合わせる中、長谷川さんは“集い”のために車で東京を目指して下さいました。しかし道路も麻痺状態ではぼ動かず、リハーサルが始まる時も、長谷川さんは車中でした。

長谷川さんを案じつつも、ソロ・コンサートで活躍された伊東裕さんに急遽代理コンサートマスターを務めて頂き、リハーサルは進行。前日の練習の成果もあって、リハーサルは順調に進みました。

プロの進めるリハーサルを聴講

チェロ・オケのリハーサルに続いて行われた Paulownia Cell Quartet のリハーサルは、メンバーのご厚意により“集い”参加者に公開されました。彼らが議論を重ねながら曲を仕上げていく様子を、参加者達は熱心に見守っていました。

チェロ・アンサンブル・コンサート

ゲスト演奏に音楽高校・大学の2人が出演

9日午後2時に事務局・佃の司会で始まったアンサンブル・コンサート、最初はめざましい成長を続ける高校

生・大学生のお二人、佐藤晴真さんとグレイ理沙さんが登場。お二人ともチェロ協会のマスタークラスやジュニア・チェロ・キャンプにも参加されているのでご記憶の方も多いかもかもしれません。佐藤さんはコダーイの無伴奏チェロ・ソナタ、グレイさんはリゲティの無伴奏チェロ・ソナタをそれぞれ演奏。難曲を弾きこなすジュニア奏者



達に聴衆も感心しきり。お二人のさらなるご活躍が期待されます。

ワクワク感の募るチェロ・アンサンブル

続いて、Paulownia Cello Quartetのメンバーを中心とした5人の若手チェロ奏者(大宮理人さん、小林幸太郎さん、村井智さん、横田誠治さん、三井静さん)によるチェロ・アンサンブル演奏。チェロ・カルテットのオリジナル曲や、小林さんが古今の名曲を見事にアレンジした魅力的なレパートリーを5人が超絶技巧で弾きこなす様に客席も大いに盛り上がりました。



チェロの日のフィナーレはチェロ・オケ

休憩を挟み、いよいよチェリストの集い参加者を中心としたチェロ・オケの演奏です。指揮者はお馴染み、山本祐ノ介先生。チェロの日では毎回、お父様の山本直純さんを彷彿とさせる赤いタキシードで指揮をしてくださっています。

チェロ・オケ最前列に目を移すと、そこには長谷川陽子さんが！何と、19時間かけてホールにたどり着かれたのです。参加者も事務局も感動と感謝で胸が一杯になりました。

演奏は、ワーグナーの「タンホイザー」より巡礼の合

唱、チェロ・アンサンブルでは有名なクレンゲルの「賛歌」、ブリテンの「シンプル・シンフォニー」よりセンチメンタル・サラバンドと続き、最後はヴィラ＝ロボスの「ブラジル風バツハ第1番」。山本先生の明快なタクトとリハーサルで、素晴らしい演奏となりました。

Tsunamiチェロで鎮魂の祈りを捧げつつ

会長の堤剛さんは、チェロ・オケで特別なチェロを奏でていました。2011年に発生した東日本大震災の津波によって被災した岩手県陸前高田市の「奇跡の一本松」などを用いて中澤宗幸氏が制作したTsunamiチェロを弾いていたのです。このチェロは、今までヨーヨー・マさんが1度弾かれたきりで、堤さんが



世界で2番目にチェロの日で演奏しました。このチェロを用いて、カザルスの「鳥の歌」を堤剛さん・山崎伸子さん・石島栄一さん・稲石薫さんの4名が鎮魂の思いを込めて演奏。ホール全体が祈りと感動に包まれました。

最後にチェロ・オケがアヴェ・ヴェルム・コルプスを演奏、華やかかつ厳粛な雰囲気第4回チェロの日は終演となりました。

チェロの日に出演くださった皆様、チェリストの集いに参加下さった皆様、指揮者の山本祐ノ介さん、ご協力くださった皆様に心よりお礼申し上げます。

河野 文昭(R-083) Fumiaki KONO

1. 近況を教えてください

東京と京都を拠点に、特に弦楽四重奏を中心に、室内楽演奏に打ち込んでいます。また今年12月7日(日)には久々に京都「ALTI」でリサイタルを予定しています。藝大での教育は相不変。この4月に中木健二先生が准教授にご就任なさいました。若い中木さんと共にますます将来を見据えた教育をと考えています。

2. 改めてチェロを始めたきっかけを教えてください

高校1年で部活動のオーケストラに入ったのが始まりです。

3. 今回、第4回チェロの日、ソロ・コンサートにご出演頂きましたが、ご感想はございますか？

大雪にもかかわらずたくさんの方が聴きにいらしてくださり嬉しい限りです。

4. 河野先生が一番ワクワクするときは、どんなときですか？

心の底から共感のできる曲が演奏できる時です。(たとえば先日のR.シュトラウス)

5. 河野先生が一番リラックス出来るのは、どんなときですか？

最近ヨガにはまっています。ヨガのクラスが終わって体の中の血の巡りがよくなり、ホワットと体が緩んだときですかね。

6. チェロ以外に好きなことはありますか？

料理好きです。食べるのも作るのも！もちろんお酒も。(お酒は造れません)

7. 若いチェリスト(プロのチェリストを目指している学生)に望むことはございますか？

プロのチェリスト＝音楽家になるためには、音楽に対してはもちろん、幅広く芸術一般に対してもオタク的好奇心と貪欲な知識欲を持ってほしいと思います。

8. 今後のチェロ協会について伺います。どのような活動に力を入れていきたいとお考えですか？

日ごろ忙しくてなかなかお手伝いできないのが心苦しいのですが、チェロサロン等でのクリニックなどで私の経験が生かせればと思います。

〔演奏会情報〕

ARAKAWAクラシックBOX 愉しみのチェロトリオ

日時/2014年7月24日(木) 19:00開演

会場/日暮里サニーサロン

料金/¥2000(一般) ¥1500(学生)

問/荒川区文化芸術振興財団03-3802-7111

出演者:遠藤真理、河野文昭、中木健二



向山 佳絵子(R-003) Kaeko MUKOYAMA

1. 近況を教えてください

昨年7月よりN響で弾くことになり、車でクラシックばかり聴くように(予習です)…&チェロを弾く時間が増え、毛替えにコンスタントに(以前よりは)行くようになりました。オーケストラでは、これまでと違うドキドキ感を毎回味わっています。

2. オーケストラで演奏する醍醐味は何ですか？

好きな面、楽しみ、感激、感動はいろいろありますが、実際はまだ新しい曲に迫られる日が多く、いっぱいいいです…そもそもN響で弾いているのは1年足らずの新人、醍醐味を語れるような立場ではありません！

3. 改めてチェロを始めたきっかけを教えてください

父がクラシック好きでカザルスファン、母はチェロを弾いていたので、身近なものでした。9歳で始めて半年でジュニア・フィルハーモニック・オーケストラに入っしまい、それが楽しくて続いていたような感じです。

4. 向山さんがワクワクするときは、どんな時ですか？

手帳をみてお休みが近づいているのを確認して…いつテニスに行こうか、どこに買い物に行こうか、或いは誰とどこにランチに行こうか、などと考えるとき。

息子たちのテニスの試合を観にいくとき、家族でテニスするとき&TVでのテニス観戦。責任感やストレスから解放されたときですね。

5. 向山さんが一番リラックス出来るのは、どんなときですか？

泊まりの仕事に出かけ、ホテルの部屋で一人になったとき。または、翌朝早起きする必要がなく、安心して眠りにつけないとき…滅多にないですけど。

6. チェロ以外に好きなことはありますか？

なんといってもテニスです。習い始めて4年、息抜きとかストレス解消とかいいながら、マメにレッスンノートつけてがんばっています。コーチに同じ注意をさせてしまうのは心苦しいのですが、アマチュアチェリストの苦労がわかるようになりました！頭ではわかっている、一度にあれもこれも気をつけるのは至難の技です。

〔演奏会情報〕

長谷川陽子&向山佳絵子 プロデュース

チェロ・コレクション〜バッハへのオマージュ〜 vol.1

日時/2014年11月11日(火) 19:00開演

場所/白寿ホール

出演/向山佳絵子、長谷川陽子、横坂源、笹沼樹(Vc)、加藤昌則(作曲/Pf)

料金/¥5000(全席指定)

問/HAKUJU HALL 03-5478-8867



©大窪道治

門脇 大樹(R-419) Hiroki KADOWAKI

1. 近況や最近の活動を教えてください

オーケストラに入って一年経ち、毎回たくさんの発見をさせていただいています。

2. 改めて、チェロを始めたきっかけを教えてください

兄が先にヴァイオリンを始めていたのですが、お兄ちゃんより大きい楽器がやりたいと言ったそうです。私自身は覚えていないのですが。

3. 今回、第4回チェロの日、ソロ・コンサートに出演頂きましたが、ご感想はございますか？

ショパンのチェロソナタを演奏させていただきましたが、チェリストにとってはあまり馴染みのない作曲家で、しかも最晩年の作品ということもあり、深く理解して演奏するということまでは到達できなかったと思います。ただ、大好きな作品なので、今の自分なりに楽しんで演奏させていただきました。

4. オーケストラでチェリストとして演奏する醍醐味は何かですか？

本当にまだまだ経験不足なので醍醐味はきっとこれから見つけていけると信じています。

今の時点で感じることは、大人数で演奏しますので、ふと自分の存在が無くなって作曲家の魂の中にいるような感覚になることがあります。

この感覚はまだオーケストラでしか味わったことがないのですが、ソナタや室内楽作品でも生かしていけるようにしていきたいです。

5. 門脇さんが一番リラックス出来るのは、どんなときですか？

家に帰って子供と遊んでいる時です。

6. チェロ以外に好きなことはありますか？

散歩です。午前中何もない日は家の近所をぶらぶら歩くのが好きです。割と郊外に住んでいますが、地元が田舎なので緑が多いところを歩くと落ち着きます。あと好きというか気晴らしにお笑い番組はよく見ます。

【演奏会情報】

日時／2014年6月17日（火）14:00開演

会場／青葉区民文化センター フィリアホール

料金／¥3,000（全席指定）

間／フィリアホールチケットセンター 045-982-9999

出演者／石田泰尚、崎谷直人、小宮直(Vn) 横溝耕一(Va)

門脇大樹(Vc) 米長幸一(Cb) 山縣万里(Cem)



伊東 裕(S-102) Yu ITO

1. 近況や最近の活動を教えてください

大学でソロや室内楽、オーケストラの勉強をしています。

2. 改めて、チェロを始めたきっかけを教えてください

私の母と姉がヴァイオリンをやっているのですが、母にヴァイオリンを習っている姉をみて私もヴァイオリンを弾きたいと言ったそうです。ですが母が、反抗心の強い私にはヴァイオリンを教えたくなかったそうで、チェロの音色を母が好きだった事もあり、始めることになりました。

3. 今回、第4回チェロの日、ソロ・コンサートに出演頂きましたが、ご感想はございますか？

チェロの日は40年振りと言われるほどの大雪でしたが、悪天候にも関わらず多くのお客様にお越し頂いて本当に嬉しかったです。今回の本番は自分の課題が本当に実感出来て悔しさもありましたがとても勉強になったと思います。また熟練の先輩、先生方の演奏を聴くことが出来てこれもまたとても勉強になりました。

4. 伊東さんが一番ワクワクするときは、どんなときですか？

曲に取り組んでいて、自分で何か新しい発見やアイデアが生まれた時はわくわくします。

5. 伊東さんが一番リラックス出来るのは、どんなときですか？

お風呂に入っている時とベッドに横になっている時です。

6. チェロ以外に好きなことはありますか？

小さい頃から漫画を読むことは好きです。あと運動も好きで中学は陸上部、高校は、ソフトテニス部に所属していました。

7. 差し支えなければ、今後どのようなチェリストとして活躍していきたいか教えてください

まだ自分がソロや室内楽やオーケストラなど、どういう活動をしていきたいかははっきりしていませんし、出来れば偏らずに勉強したいですが、何の曲をどんな編成で演奏していても、自分のアイディアをしっかりとって活動して行けるようになりたいです。

【演奏会情報】

ラ・ルーチェ弦楽八重奏団

日時／2014年4月18日（金）19:00開演

会場／JTアートホール アフィニス

料金／¥3000（一般） ¥2000（学生）

間／ラ・ルーチェ事務局 Fax:03-4496-4029

Mail laluce.octet@gmail.com

出演者：大江馨、城戸かれん、小林壺成、毛利文香(Vn)

有田朋央、田原綾子(Va) 伊東裕、笹沼樹(Vc)

コメント／同世代の素晴らしい演奏家たちと「今出来ること」を大切に演奏させていただきます。



ジャン＝ギアン・ケラス氏マスタークラス開催

2013年11月20日(水) サントリーホール

2013年度のマスタークラスには、2005年以来8年ぶりにジャン＝ギアン・ケラス氏をお招きしました。

会員を対象として公募した受講生は、香月麗さん（高2）、グレイ理沙さん（大1）、佐藤晴真さん（高1）の3名。受講生が準備した曲を演奏した後、ケラス氏はご自身のチェロを弾いてお手本を見せながら、技術的なアドバイスや演奏家としての気持ちの持ち方などを伝えていました。ケラス氏の受講生に対する温かな眼差しと、ユーモア溢れる明快な指導に、受講生はもちろん、100人を超える聴講者は何度も頷き、時には笑顔もこぼれていました。ケラス氏の通訳は、2005年のマスタークラスでもご担当頂いた藤本優子さんをお願いしました。ケラス氏のフランス語をあたかもそのまま聞いているかのような、ご自身も音楽家であった藤本さんならではの通訳でした。以下、聴講者と受講生によるレポートをご紹介します。

聴講レポート

佐藤晴真さん

コダーイ：無伴奏チェロソナタ Op.8 第1楽章

佐藤晴真さんは東京芸大付属高校の1年生。笑顔の中に引きしまった表情を見せながら堂々と演奏を始めると、チェロからは強く豊かで美しい音が鳴り響きます。感心したのは、作品を完全に把握し演奏家としての表現を練り上げている点でした。そんな佐藤さんの演奏を聴いたケラスさん、満面の笑顔で心のこもった拍手と共に「素晴らしい。魂のこもった歌い詰めた音で本当に美しい。」とコメント。最初のアドバイスは意外にも音程。高音か

ら低音に降りる時の正確さ、また曖昧な音程ではなく、オルガンのように正確なハーモニーを見つけることが大切。次の音をイメージしアナリーゼ的な意識を持って音程を取ること。2つ目のアドバイスはリズムの構築でした。第1テーマと第2テーマのリズムの違いを出す。ヘミオラの部分は意味づけを示すためにはっきりしたビートで弾く。3つ目のアドバイスは音の処理。音楽が盛り上がり収束し、さらにその先の音楽に繋げる時の音の作り方です。注意点は、音がばらばらに聞こえるようなアーティキュレーションにしない様子を付けてボウイングすること。あつという間の40分。最後にケラスさんは佐藤さんの肩をハグしていました。そんな気さくなところもケラスさんの魅力の一つです。

〔レポート：岡村匡純さん（R-395）〕

香月麗さん

シューベルト：アルペジオーネソナタ 1楽章

2番目に登場した香月麗さんは桐朋女子高に在学中の初々しい奏者で、そのシューベルトの演奏もケラス氏から「とても美しい。音程も正しいですね。」とまず褒められてからレッスンのスタートです。

一番重視していたのが「レガートボウが如何に大事か」という点です。「一つの大きな動きは出来るだけ一弓で、穏やかに自然に一つの長いスラーで弾いてほしい。フレーズを掴むためにはフリルをそぎ落として長い音のラインを三つの音だけで試しに弾いてみよう。但し途中で弓のスピードを加速しないこと。」

またケラス氏は、「ずっと同じ和音の中に留まろうとすると、ずっと転調した途端に魔法が降りてきたように風



左から佐藤晴真さん、香月麗さん、グレイ理沙さん、ジャン＝ギアン・ケラス先生

景が変わるのがシューベルト。和声の動きがシューベルトを弾く上では最も大事。転調した時に作為が感じられないようにアナリーゼによって転調していく音符がどれかをよく研究して見つけておくこと。ただ美しく弾くのではなく物語を聞かせて欲しい。ハ長調なら幸せでたまらない、といったようにそれぞれの調性から感じられる雰囲気を一瞬にして醸し出さないといけない。」ともお話をしました。

若い才能あるチェリストにとって、とても分かり易く実践的であり、おしゃれなレッスンでした。香月さんが将来、素晴らしいチェリストになることを期待しています。[レポート：三木隆二郎さん (R-001)]

グレイ理沙さん

ベートーヴェン：チェロソナタ 3番より 1楽章

前二人のユーモアある講習が終了し、3人目のグレイ理沙さんが登場。課題曲を完璧に弾く中、ケラス先生は哲学者のように瞑想に耽りながら耳を傾けられておられた。そして演奏が終わると「今日はビブラートについて話をしたい。」と言われ、無意識のうちにあるアーティキュレーション上の癖を指摘された。最初のソロをレガートで弾かれ、運弓と拍の数え方を指導し、グレイさんに同じように弾かせると注意したことが直っていた。さらにグレイさんの横に立ち、カデンツの部分では右手と一緒に持って指導された。腕のスイングは個人レッスンでなければ習得は難しいことの見本の様であった。「よく左手の基本形としてネックに対して親指と2指を丸くするようにと教わるがそれは力が入り良くない」と指導され、カザルスの力を入れない弾き方を実践すると、芯のある綺麗な音となっていた。最後に「巨匠でも舞台は怖いものだ。」とリヒテルやカザルスのエピソードを話され、「最初に大きく間違えるとリラックスできるので、一度やってみると良い」と言われると、会場は大きな笑いに包まれた。

ケラス先生のご指導は、短い時間ではあったが、受講者の個性を尊重する教育方針が伝わってきた。今後のグレイさんの活躍が楽しみである。

[小倉千秋さん (R-166)]

受講レポート

S-134 佐藤晴真さん

(東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校 在学)

コダーイの無伴奏チェロソナタは、C線とG線の低弦2本を半音下げる「スコラダトゥーラ」という技法で作曲されています。その中で、民族的なリズムや歌い回しが奏でられるので、独特な響きが生まれます。力強い表現を要求される曲なので弾く時はつつい力んでしまうし、ポジション的には低いところから高いところまであらゆるポジションが出てくるという難しさもあります。ケラス先生に教わったことは、音程を確かめる時の意識の持ち方、第1楽章においてのリズムの感じ方などです。

音程を確かめる時には、楽器から出てくる音を直接聴こうとする狭い聴き方ではなく、ビブラートや音量を捨てて、その音が空間に出てから聴こうとする意識が必要だということです。また、第1楽章のリズム感として大切なのは、2拍目に重さがくる、「サラバンド」を意識して弾くということです。どの指摘も新鮮で、自分の考えが広がったように思います。特に新鮮だったのは、一弓の中で、重さが自由に乗せられるようにするエクササイズです。それは、3弓で出す3つの音を1つの音と考え、音の自然な減衰を表現するものです。弓のなめらかさはどんなフレーズを演奏する時にも必要なことで、緩急や強弱が自然な流れで表現されないといけないと思いますが、ケラス先生に教えていただいたこの方法は、そのためのとてもユニークで具体的な練習方法だと思いました。ケラス先生は少しの音も聴き逃さない集中力とユーモアをもって、情熱的にご指導して下さいました。

S-100 香月麗さん

(桐朋女子高等学校音楽科 在学)

レッスンで始めに教わったことは、右腕の使い方です。アルペジオーネ・ソナタの長いフレーズやスラーを弾く時に、右腕の内側で弾くのはいけないとケラス先生は仰いました。そして自分の右腕をしっかりと見張って余分なことはしないようにすること。

オリジナルのスラーを守り、長いスラーもその一息の中で歌う。音の内側で共鳴させること。それらを注意深く気に留めて弾いてみると、とてもシンプルな純粋な伸びのある音が出て、今まで私が想像もしていなかった音、歌になりました。

ケラス先生は音色の変化を私に求める時、頭にピンとくる非常に分かりやすい表現をして下さりました。たとえば、「ここで目が覚めたように」とか、「幸せそうに」とか、「手招きしているみたいに」と。その後第2主題のところで、「ここからは、君自身の物語を語るように」、「この曲の一場面一場面にちゃんとイメージがあるから」と仰り、言葉でも音でも表現できるのだということに気付きました。

もっとシューベルトが伝えたかったことを楽譜から読み取り、私の中でイメージを膨らませ、それを聴いてくださる人に伝えることが必要ということを知りました。そして調の移り変わり方から、そのフレーズのキャラクターをつくと、音楽が立体的に伸び伸びとしたものになると、弾きながら違いを感じました。

レッスンで最も印象に残ったのは、シューベルトの曲においては「和声こそが、神なんだ!」という先生の言葉です。シューベルトの曲は和声によって、すべてができています。その和声を理解して、感じて、弾かなくてはならないということです。この曲を勉強する核心にふれたと、ハッとしました。

私の目の前で弾きながら教えてくださる先生のチェロの音は、息をのむほど美しい音でした。音の厚みや身体の動きなど、間近で演奏してくださる先生の姿を見ることで、学ぶこともたくさんありました。先生の音楽は、体の中心から広がり、あふれていて、本当に体全体で弾いていらっしやいました。

S-106 グレイ理沙さん (東京藝術大学音楽学部 在学)

今回は、素晴らしい演奏をした二人の高校生の後で舞台に上がっていくことになり、多少ハードルが高い気持ちでした。また、ベートーヴェンのチェロソナタということも心配な要素でした。というのも、始まる前に楽屋にケラス氏にご挨拶に伺い演奏曲目を告げた時、“I don't like Beethoven!”と言われてしまったからです。しかし演奏後は、非常に紳士的に優しい声で“Merci beaucoup”と仰ってください、私の不安はすっかり消えました。

ケラス氏は、技術的なアドバイスを音楽的とも聞こえるテンポのよいフランス語で、言葉と動作に沢山のユーモアを交えて指導してくださいました。自分の難点を氏が指導してください、それによって場内に笑いが起こるのは弾いている者として情けないことですが、その表現力に自分も一緒になって楽しんでしまいました。

「どんな巨匠でも演奏するときは、ドキドキするものらしいです」とおっしゃり、著名なピアニストが演奏会で音を全部外してから、次の曲から完璧な演奏を始めた話

をしたり、「ヨーヨーマが楽器を身体から大きく外すのもリラックスする為です」と説明して、ご自分の足を高々と上げたりしました。中でもカザルスが最高の例だと話してくれました。「カザルスが歌いながら唸るのは、緊張を放つためです」とおっしゃったときは、場内から沢山の頷きの声が聞こえました。

ケラス氏の優しさのもう一つは、「フランスには、良い点悪い点は物事の表裏であるという諺があると」おっしゃった事でした。例えば、ベートーヴェンのソナタ3番の冒頭のフレーズは、レガートに弾くべきで、ビブラートは、途切れなく滑らかに繋がるのが望ましい。ところが、自分のかけたビブラートは、一音ずつ切れてしまい、激しい所とそうでない所の凸凹状態になっている。でも、裏を返せば、ビブラートをかけたいという思い、意思が感じられるということです。欠点を分析し、努力次第でそれを長所に転ずることが出来るのかもしれない、癖が長所になりうるかもしれないなどとプラスに考えることができるとしたら、根気強く努力出来る気がします。

チェロサロン開催報告

去る2013年11月16日、サントリーホール・リハーサル室にて、チェロサロンを開催いたしました。斎藤建寛先生をお迎えし、演奏や技術に関する疑問点についてじっくりレッスンしていただくクリニック、4パートを大人数で作りに上げるアンサンブルのご指導いただきました。クリニックの受講生は、植松晶子さん(R-341) [マルチェロ：ソナタ1番 1・2楽章]、岩田暢子さん(R-268) [バッハ：無伴奏チェロ組曲 6番 サラバンド]、そして岩田瑞生さん(S-135) [ダヴィッドフ：チェロ協奏曲 第4番 1楽章]の3名。各々選んできた課題曲を中心に、日ごろ苦戦している事について具体的な練習方法を教えて頂いたり、曲そのものについて、作曲された時代にまで解釈を掘り下げたお話を伺ったりしました。20分という短い時間の中でも、最初と終わりの方で演奏に変化が見られ、受講生は充実した時間を過ごせたようでした。

アンサンブルでは、F.グリュツマッハー作曲のコンセクレーション・ヒム、G.ゴルターマン作曲のロマンスの2曲を取り上げました。斎藤先生は一人一人の演奏する姿を見つつ、時折指揮をされながら、全員の呼吸を合わせる事、また音楽をどう表現するかについて、イメージをし易い例を沢山挙げて説明されました。

「音」とは芯となるものだけでなく、それを囲んでいる倍音が大切。割合をアーモンドチョコで例えるならば、アーモンドが実音、チョコの部分が倍音。倍音を大切に演奏してほしい」とのお話された際には、エスプリの効いた表現に、会場はとても和やかな雰囲気に包まれました。

た。参加者は、自分のパート以外の指摘も譜面に細かく書き込む等、積極的で熱心な姿が見られ、それぞれに得られた事も多かったのではないのでしょうか。

今回のチェロサロンでは、会員18名、非会員4名、スタッフ3名の計25名にご参加いただきました。参加者の皆様、そして素敵なお指導をいただきました斎藤建寛先生に心より感謝申し上げます。次回チェロサロンもお楽しみに！

メンバーズ

岩田 瑞生 さん(S-135)

2013年、わたしはチェロを始めて5年という節目を迎えました。個人レッスンと地元のジュニアオーケストラで練習を続けてきました。視野を広げたいと思い、2月には「チェロの日」のジュニア・チェロ・キャンプに参加し、多くの先生方にアドバイスをいただきました。そして、11月に斎藤建寛先生のチェロサロンを受講しました。

チェロサロンでは、かねてからのわたしの課題であるビブラートについて教えていただきました。音を揺らせてはいるけれどもなかなかコントロールすることができず、苦しんでいました。斎藤先生は、ビブラートは1つずつの音に対してかけるのではなく、フレーズ全体にかけるものであるということを教えてくださいました。また、実践的なビブラートの練習方法を教えていただき、毎日練習しています。

最後になりましたが、斎藤先生、お世話になったチェロ協会の皆様、貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました。これからも練習がんばります。



Concert Information

会員の出演・主催する演奏会などをご案内いたします



埼玉会館ランチタイム・コンサート 第25回 NHK交響楽団 12人のチェリストたち

日 時／2014年4月25日（金）12:10開演
会 場／埼玉会館 大ホール
入場料／¥1,000（全席指定）
問合せ／SAFチケットセンター 0570-064-939
（彩の国さいたま芸術劇場休館日を除く10:00～19:00）
コメント／メンバー12人全員揃うのは初?!

鎌倉芸術館ゾリステン・コンサート Vol.40

日 時／2014年6月1日（日）15:00開演
会 場／鎌倉芸術館
出 演／古川展生・向山佳絵子（Vc）、他
入場料／¥3,500（全席指定） ¥500（学生：小～高校生）
問合せ／鎌倉芸術館チケットセンター 0120-1192-40

KSTアンサンブル2014 with ライナー・ホーネック

日 時／2014年6月10日（火）19:00開演
場 所／紀尾井ホール
出 演／R. ホーネック、青木高志（Vn）馬渕昌子・市坪
俊彦（Va）河野文昭・丸山泰雄（Vc）、吉田秀（Cb）、他
入場料／S ¥5,500 A ¥4,000 学生¥2,000
問合せ／紀尾井ホールチケットセンター 03-3237-0061

岡山潔弦楽四重奏団神戸公演

日 時／2014年6月19日（木）19:00開演
会 場／西宮の兵庫県立芸術文化センター
入場料／一般¥3,000 学生¥1,000
出演者／岡山潔、服部芳子（Vn）佐々木亮（Va）河野文昭（Vc）
コメント／ベートーヴェン中期シリーズの最終回は「セ
リオーソ」と、シューマンの第3番です。
問合せ／神戸コンサート協会078-805-6351

モーニングコンサート

日 時／2014年6月19日（木）11:00開演
会 場／東京藝術大学奏楽堂（大学構内）
入場料／¥1,000（全席自由席：入場整理番号付き）
問合せ／東京藝術大学演奏芸術センター
050-5525-2300
コメント／芸大フィルとドヴォルザークのチェロコン
チェルトを演奏します。非常に有名なこの名
曲を自分なりの解釈で表現出来ればと思いま
す。

ARAKAWAクラシックBOX I

日 時／2014年6月23日（月）19:00開演
会 場／日暮里サニーホール コンサートサロン
入場料／一般¥2,000 学生¥1,500
出演者／玉井菜採（Vn）、河野文昭（Vc）、河野美砂子（Cem）
問合せ／荒川区文化芸術振興財団 03-3802-7111
コメント／年4回のサロンコンサート、私のお話を交え
て本格的な室内楽を楽しんでいただくシリー
ズです。バロックの室内楽。

岡山潔弦楽四重奏団津田ホール定期

日 時／2014年6月28日（土）15:00開演（予定）
会 場／津田ホール
入場料／一般¥4,000 学生¥2,000
出演者／岡山潔、服部芳子（Vn）佐々木亮（Va）河野文昭（Vc）
コメント／ベートーヴェン中期シリーズの最終回は「セ
リオーソ」と、シューマンの第3番です。
問合せ／東京アーティスツ 03-3440-7571

チェロデュオの世界～知られざる名曲たち～

日 時／2014年7月12日（土）
会 場／東京・駒込 ソフィアザールサロン
出 演／高橋麻理子（Vc）、武澤秀平（Vc）
入場料／¥3500（先着50名様、終演後ワイン付懇親会あり）
問合せ／ソフィアザールサロン 03-3822-9677

茂木大輔の生で聴く “のだめカンタービレ”の音楽会

日 時／2014年8月9日（土）15:00開演
会 場／兵庫県立芸術文化センター
KOBELCO大ホール
出 演／向山佳絵子、他
入場料／S ¥6,500 A ¥5,500 B ¥4,500
問合せ／兵庫県立芸術文化センターチケットオフィス
0798-68-0255

事務局からのお知らせ

堤剛会長が文化功労者に選ばれました

2013年10月25日、平成25年度文化功労者に堤剛会長が
選出されました。文化功労者は、文化の向上や発展に関
して特に功績があった方から選ばれており、25年度は15
名が選ばれました。尚この度の文化功労者選出に際して、
堤会長より「チェロ協会の活動に役立てて頂きたい」と70
万円のご寄付を頂きましたのでお知らせ致します。



写真：サントリーホール提供

「堤剛のための6つのチェロ作品」 の楽譜について

2012年9月7日にサントリーホールブルーローズにて行われた「堤剛さんの70歳を祝う会」において、湯浅譲二、一柳慧、野平一郎、外山雄三、西村朗、細川俊夫の各氏が堤剛氏のために書き下ろし献呈した6つの新作が、昨年12月全音楽譜出版社より出版され、ソニー音楽財団様のご好意でチェロ協会に楽譜をご寄贈頂きました。堤会長は長年にわたり、現代のチェロ作品、特に日本人作曲家による作品の演奏、紹介に力を入れて参りました。この6つの作品につきましても永続的に世界中で演奏されチェロ・レパートリーが一層広がるよう会員の皆さまにもお届けしたく思います。ご希望の方は事務局までお知らせ下さい。(お一人一冊まで)

【応募方法】「楽譜希望」を明記の上、会員番号、氏名、住所をFAXまたはE-mailで事務局までお送りください。
※応募多数の場合は抽選となります。予めご了承下さい。

【応募締切】2014年4月30日(水)

ルイス・クラレット チェロ公開マスタークラス 概要

日 時：2014年4月10日(木)19:00開講(18:20開場)

場 所：サントリーホール・ブルーローズ

入場料：会員／無料 非会員／¥1,500(当日／¥2,000)

受講生：黒川実咲さん、笹沼樹さん、藤原秀章さん

申込方法：申込書、または氏名、住所、連絡先、メールアドレスをFAXまたはE-mailで事務局までお送りください。

2014年度会員更新のお願い

会員更新の手続きをお願いいたします。詳細は別紙をご参照ください。

会報誌記者ボランティア募集

マスタークラス(4/10)のレポーターを募集いたします。経験は問いません。当日聴講可能でレポートをして下さる方は、事務局までご連絡ください。

コンサート情報大募集

会員が出演・主催するコンサート情報をお寄せください。

①公演名②日時(開演時間)③会場④出演者⑤料金⑥曲目等⑦問い合わせ先⑧コメントをお書き添えの上、メール、FAXでお送りください。下記URLのフォームからのご提供頂けます。

http://celloday.cello-congress.com/?page_id=832

毛利伯郎先生退任のご挨拶



設立以来評議委員を勤めさせていただきましたが、今回個人的な事情により今期をもって退任させていただきました。これまで沢山のチェリストが集うチェロの日の開催、マスタークラス、チェロサロンなど思い出深い事が数多くあり名残惜しい気持ちですが、これからは1会員として協力をしていきたいと思っております。世界的にもチェリストは仲が良いと言われています。日本チェロ協会がこれからもチェリスト又チェロのファンのために有意義な企画をたて日本のチェロ界を盛り上げて行く事を楽しみにしています。

2013年度第2回評議委員会 開催報告

2014年2月9日(日)に評議委員会が開催されました。

□開催日時：2014年2月9日(日)11:45～13:00

□会場：サントリーホール第6楽屋

□出席者10名(敬省略)

(会長)堤 剛、

(副会長)中島颯、堀了介

(書記)山崎伸子

(評議委員)石島栄一

(事務局)飯田芳憲、八反田弘、渡邊亮、佃香菜子

□議題

1. 「堤剛のための6つのチェロ作品」の楽譜の送付先
2. チェロ協会評議委員退任・就任
3. ジュニア・チェロ・キャンプ

編集後記

事務局も今年で3年目になり徐々に会員の方のお名前とお顔が一致するようになり嬉しく思います。新しい年度を迎えますが、これからも会員の方の声を大切に事務局を務める所存です。会報41号も沢山の皆様にご協力頂き、誠にありがとうございました。(佃)

日本チェロ協会会報(JCS NEWS)第41号 2014年3月31日発行

発 行：日本チェロ協会

東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル22階 私書箱509号 電話 03-3505-1991 FAX 03-3582-1310

発行人：堤 剛 編 集：日本チェロ協会事務局 編集協力：リュウカンパニー